

## 第6分科会 第10回運営委員会記録（概要）

平成18年2月4日（土）：午後3時10分～5時20分

区役所第一分庁舎研修室：（進行）高野座長

### 1 参加委員（敬称略）

- ・区民委員：（1班）入江雅子、小宮一夫（2班）稲葉佳子、河村寛二（3班）梶村勝利、森田優子（4班）中山一郎（5班）竹折富美子（6班）高野 健、上田尚子（7班）鈴木幸展
- ・学識委員（三田、伊藤、土屋）
- ・起草委員：（1班）橋本正敏（3班）梶村勝利、木下美幸、（4班）竹内妙子（5班）藤原佐喜子（6班）西山利光（7班）山本重幸

### 2 議事（概要）

#### （1）学識委員からの資料説明

第6回運営委員会で決定された「多文化共生」及び「地域安全」に関する区民委員から学識委員への質問（行政への質問も含む）に対する回答資料の配付、説明が行われた。

- 【資料名】①地域安全について－要援護者への対応と政策指標  
②多文化共生について－言葉と先駆的取り組み

#### （2）各班で話し合われた「中間発表用資料原稿」についての意見交換

- ・中間発表の段階であるから断定的な表現は使わないほうがいいのではないか。
- ・わだかまり、荒廃、「まちこわれ」などという用語は使わないほうがいい。
- ・「新宿区」と「区」など単語の使い方が統一されていない部分がある。
- ・地域安全（P6-23）の「改善方法」の項目の順序を重要度順に入れ替える。

⇒以上、見直していく。

- ・地域安全の構成について、災害はいつ起きてもおかしくないという面を踏まえて、10年後ではなく、すぐに改善するために「改善方法」と「10年後のあるべき姿」の順番を入れ替えてはどうか。

⇒他のテーマとの構成と統一するために入れ替えない。

- ・中間発表の日までに時間が足りず、十分討議されていない事柄はどうするのか。

⇒精査して「重要であり、さらに論議が必要と思われる意見項目」に移行していく。

- ・パワーポイントの見直しについての意見。

⇒内容、ボリュームなどを今回の資料と見比べて、新たに作成する。

- ・行政とはどこを指すのか。

⇒行政の表現は、「区」と分かるものは区に限定し、国などを含む場合と使い分ける。

- ・外国籍住民と外国人との使い分けの違いは？
- ・すでに現実には、外国人登録者以外に多くの外国人がいるのが現状
- ・外国人とは、合法的に在籍している人を指すのか、全ての外国人を指すのか。

※事務局説明：「区長は、合法的に在籍する外国人との共生を前提としている。」

- ・区長の考えと違っていいのではないか。
- ・医療などに関しては、合法非合法を問わず、区民視点として人道的見地から考えてはどうか。

○学識委員からの助言：この会議は、区に提案するのが役目ではないか。これだけは、取り上げたいというものを入れ込んで行く方向が大切ではないか。

- ・『第6分科会は「運営委員会」を立ち上げ作業をしている』ということ特徴を紹介したほうがいい。

⇒「はじめに」で触れていく。

※このほか、起草委員・学識委員の打ち合わせにより、資料の見直しが行われた。

### (3) 今後の分科会の検討方法について

今後、①協働・参画、②コミュニティ、③自治制度の3テーマに分かれて検討していくことについての意見交換をした。

- ・中間発表会後に、班替えをするのではなかったか。

⇒班替えをする、しないを含めた検討という扱いになっている。

- ・また、自己紹介からというのも非効率。ここまで来たらできれば現在の班で進めたい。
- ・現在人数の少ない傾向にある、2班と7班を合併し、全6班体制としてはどうか。そして、2班ずつで3つのテーマを担当する。
- ・班のメンバーで違うテーマを希望する場合は、意見カードを用意してはどうか。
- ・さらに議論が必要な部分が見えてきている、多文化共生や地域安全は、3テーマの検討後に再度討議してはどうか。

### (4) 次回の運営委員会について

資料印刷の関係から、2月8日に修正した原稿及びパワーポイントによるリハーサルを行うこととする。